平成 29 年度第 2 回和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会実施報告

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会規程第3条第1項の規定に基づき、標記委員会を実施しましたので、以下のとおり報告します。

１．開催日時　　平成 30 年 2 月 13 日　14 時から 17 時まで

２．場　　所　　和歌山県立医科大学　管理棟　特別会議室
　　和歌山県立医科大学附属病院　中央棟　中央手術部、化学療法センター

３．出席委員　　委員長　　山口　悦子（大阪市立大学）
　　副委員長　中川　利彦（パークアベニュー法律事務所）
　　委員　　石井　浩子（NPO 法人いきいき和歌山がんサポート）

４．院内出席者　病院長・管理者　　山上　裕機
　　医療安全管理責任者・副院長　　中尾　直之
　　医療安全推進部長　　水本　一弘
　　医薬品安全管理責任者・薬剤部長　　岩城　久弥
　　医療機器安全管理責任者・臨床工学センター長　　重松　　隆
　　臨床工学センター工学技士長　　中村　一貴
　　事務局次長（病院担当）　　中口　　匠
　　中央手術部看護師長（現場対応）　　大浦　泰代
　　腫瘍センター　化学療法部門長（現場対応）　　上田　弘樹
　　薬剤部　調剤係　副主査（現場対応）　　佐野　尚平
　　看護部　外来　副主査看護師（現場対応）　　杉本　里実
　　経理課　調達用度班　班長　　井口　禎士
　　経理課　調達用度班　主事　　田中　友梨

５．議事次第（１）患者、家族への対応について
　　（２）中央手術部での使用物品の管理、記録について
　　（３）化学療法センターの安全管理について

６．監査結果
（全体として）
・ 全体の感想としては、「手厚く、親切」という印象を受けた。個人的に、「手厚く、親切」であることは医療安全の基本であると考えている。監査病院は、医療安全を

大前提、最優先にした病院経営をしていると思う。

（１）

・ アクシデント発生時の患者、家族への説明について、きっちり説明し、カルテにもその旨を記載している。

・ 転倒転落の対策を検討するにあたり、そのディスカッションの内容とそれに基づく結論についても診療録に記録したほうが、改善のためにも、患者、家族の納得のためにもよいのではないか。

（２）

・ 数千から数万におよぶ医療材料について、看護師が中心になりマスタ化している点及び SPD ラベルにより使用後の情報が 5 年間保存され、トレーサビリティが確立されている点を評価する。

・ サンプルやデモ機の管理について、手続きを明確化して様々な医療が行える環境を整えている点を評価する。まだ、十分に管理できていない点については、より一層進めていっていただきたい。

・ 病院長、事務局、医療安全部門が情報を共有し、できるだけ臨時購入を減らし、同等品を減らす取り組みを評価する。臨時購入伝票の件で、未だ不十分な点については、より安全な病院と健全な経営を目指し、標準化に向けた取り組みを推進し、より高い水準まで高めていただきたい。

（３）

・ 化学療法センターにおいて、患者向け説明冊子の整備、副作用対策のフォローの体制が充分にとられている。

・ 副作用対策の説明を薬剤師からと看護師からの二段体制にし、それでも不安を感じる患者に対してはがん看護相談外来が整備されている。また、外来化学療法患者に対して 24 時間体制で電話連絡が取れる体制を整えており、患者が安心できる体制を取っている点が評価できる。

（総括）

特定機能病院としてふさわしい医療を病院長のもと提供するよう活動しているので、今後も効率性、適時性、患者中心志向、安全性などの医療の質の指標をより高め、スリムな経営を行う親切な病院になっていただきたい。